

令和7年度 第2回学校運営協議会

令和7年11月14日（金）

14:18～15:30

於 図書館

1. 開会

2. 学校運営協議会 会長挨拶

- ・宇都宮大の学生（大田原市出身）とのやり取りから：ひと昔前のイメージ（保護者）を持っている人がいると感じた。HPをはじめ、正しい情報を発信し続けることによって黒羽高校のよい取り組みをぜひ皆に知ってもらえるようにしていきましょう。

3. 黒羽高等学校 校長挨拶

- ・2学年 来週期末テスト、再来週修学旅行（広島・関西方面）
- ・3学年 進路先が決まった生徒も多いが、これから本番を迎える生徒もいる。
- ・進路ガイダンス：企画中
- ・来年度から全学年2クラス  
→ 体育祭や修学旅行等の持ち方を考えていかなければならない時期になっている。
- ・今いる生徒たちにより教育をし、発信していく必要がある。

4. 議事 【 進行 会長 】

（1）学校からの説明・意見交換

① 黒羽こころみ学習1学年【環境学習】（1学年主任）p.1,2

● 前期：

- 1日目 なかがわ水遊園、水産試験場（ミヤコタナゴ）の見学  
各自タブレットを持参し質問や記録をしている姿が見られ、  
小・中で学んだ経験もふまえて活動することができた。

- 2日目 まとめ学習・発表  
タブレットを活用し、班ごとにまとめて発表した。

振り返り学習で、特によかったグループの発表を実施。慣れ親しんだ水遊園でも見方が変わったという生徒の声もあった。

● 後期：

- 1日目 那須平成の森ガイドウォーク  
昆虫や動物、植生等についてガイドに質問する姿が見られた。  
動物と共存することの大切さを学んだ。

- 2日目 藍染体験・まとめ学習  
藍の葉から染色液を作り、ハンカチを染めた。積極的に体験できた。  
まとめは新聞づくりをし、班の中で発表し、後日掲示した。

② 黒羽こころみ学習 2 学年【 前期：地域理解学習 】【 後期：平和学習・異文化理解学習 】

(2 学年主任) p.3,4

● 前期：

1 日目 天鷹酒造、那須神社、黒羽観光やな、芭蕉の館の見学

黒羽やその周辺地域での活動を行った。

2 日目 竹細工体験・まとめ学習

大阪万博で作品を出展された八木澤竹芸さまにご指導いただいた

鮎を初めて食べという生徒もあり、貴重な体験となった。

黒羽地域を PR するパンフレットを各自制作した。イラストや取材したことを文章にまとめる姿が見られた。

→ 夏季休業中の保護者懇談の際にパンフレットを見ていただいた。

● 後期：

1 日目 平和学習：被爆体験講話の聴講、映画「この世界の片隅に」鑑賞

被爆伝承者の河上聡氏のご講話。廣中正樹さん（被爆当時 5 歳）から聞き取った。原爆による被害について、廣中さんが描いたイラストを示しながらお話ししてくださった。

2 日目 関西・広島方面についての専門講義、まとめ学習

職員による方言・名所・歴史・食文化・伝統工芸の 5 講義を受けた後、班ごとに二日間で深掘りしたいテーマについてまとめた。

事後学習：班別でパワーポイント発表

生徒はタブレットをうまく活用し、スライドの共有をしたり見やすい工夫をしたりしながらまとめ活動を行うことができた。

③ 一日体験学習（教務主任） p.5 ～10

- ・ 申し込み：生徒 111 名、保護者・中学校教員 78 名
- ・ 参加者：生徒 98 名、保護者 60 名
- ・ オープニング、学校説明、模擬授業
- ・ 教員と生徒との距離が近く、アットホームな印象を受けた様子であった。
- ・ 本校独自の行事「花見句会」、演劇部等が好評だった。

④ 進路状況（進路指導部長） p.11

- ・ 96 名中 54 名が進路内定（10 月末現在）
- ・ 総合型、推薦、AO が中心
- ・ 学力選抜は 1 名予定
- ・ 地元志向が強い
- ・ 第 1 陣で 79、2% 内定をいただく（昨年は 95%）

- 昨年度は慎重（生徒の適性に合ったもの、大きなチャレンジが少なめ）
- ・ 内定がまだ決まっていない生徒も、2次募集に向けて前向きに頑張っている。

### 【意見交換】

- （校長） 一日体験は肯定的な意見が多かったが、中学生の第1回の希望調査は38名。昨年度より少し下がってしまった。
- （委員） p.8 一日体験学習のアンケートに、音響がよくなかったという意見があった。
- （校長） ZOOM 接続の不備。オンラインの短所が出てしまった。  
熱中症対策のため、例年オンラインで実施している。
- （会長） 個人相談を希望する意見があった。
- （校長） 部活動見学の時間に実施可能。次年度以降に計画していきたい。
- （委員） こころみ学習が素晴らしい。発表の視点は何か？生徒が知ったことがメインなのか、あるいはこれからの自分の生き方に結び付いたものが主なのか。
- （学年主任） 本来なら目的をもって（自然との共存など）行うことができるとよいが、生徒の実態を見ると知り得た情報の発信が多かった。ご指摘いただいた点を課題にしていきたい。
- （校長） 体育館での発表は？
- （学年主任） 前期・後期ともに暑く、環境的に難しいため、教室での実施となった。
- （校長） 2年生の発表を1年生が見ることで、継続性のあるよい学びになるようにしていきたい。
- （委員） 2学年の地域理解は大田原全体か黒羽地域に限定したものか？
- （学年主任） 黒羽以外に住んでいる生徒が多いため、理解促進のため、黒羽地域に焦点を当てた。
- （委員） 来春放映予定の朝の連続テレビ小説で、主人公（大関和さん）が黒羽出身である。子どもたちの意識も変わるかもしれない。大雄寺、黒羽城址公園、江戸時代末期の黒羽（作新館）にも目を向けてみるのも面白いだろう。この機会を逃す手はない。TVを通して生徒に「（黒羽は）こんなところだったんだ」と興味をたせ、楽しんで郷土について学ぶ機会にしていきたい。
- （委員） 黒磯高校がTV番組「新しいカギ」に出演しているのを子どもと見た。三田関もいるし、上記のこともある。色々なコーナーがあるので、本校も出演できないかハガキ応募している。
- （委員） こころみ学習は毎年新しいテーマを設定しているのか。1年生で学んだ内容を2年生で発展的に学習はしないのか。
- （学年主任） テーマは毎年各学年で同じものを実施している。
- （校長） 発展的な内容も面白いかもしれない。
- （委員） 数年前はこの町の歴史について、30名ほどのガイドがおり、勉強会などを行っていた。案内することが可能である。
- （校長） 中学校で地域学習は実施しているか？
- （委員） 高校のように他の地域から来る生徒があまりいないため、小・中学校では実施している。
- （委員） 黒羽在住の生徒は黒羽地区についてある程度知っている。それ以外の地区から通う生徒も私の学校がある地域」について楽しんで学べるとよい。
- （会長） 生徒の発表物や1日体験のOP動画を視聴する機会を作って欲しい。

⑤ 学校の魅力化・特色化について（教頭） p.12

● SNS について

- ・昨年度の11月より、Instagramを開設した。
- ・開設の主目的だった昨年度の入学希望者の増加に繋がらなかっただけでなく、その後の閲覧数の増加も見られない。
- ・本校では、ホームページの更新頻度が高く、閲覧数もInstagramより大幅に多い。
- ・Instagramはホームページのように一時保存ができないため、リスクが大きい。
- ・アカウント登録に人間の顔写真を必要としているため、個人情報上の問題がある。

（委員）閲覧者の増加については、長い目で見て、継続していくことも必要なのではないかと考える。

（校長）魅力あるコンテンツは個人情報上のリスクを伴うことが多いので、どうしてもInstagramの長所を發揮しにくい。安全性を優先せざるを得ない。

（委員）校長と同じく、安全性を優先するのが大切だと考える。

（委員）即時性においてスマートフォンでの撮影が効率的ではあるが、安全性を優先して、本校ではデジタルカメラのみの撮影を許可している。。

（教頭）本校では、多くの職員がホームページを作成することができるが、Instagramを投稿することができる職員は限られている。

（委員）中学生はInstagramよりホームページを見ることが多い。職員の負担を考えると、大きな効果が得られなければ継続する意味はないと考える。

（会長）Instagramは友達とのやりとりなどがメインで学校からの情報発信には向いていないのではないかと考える。

● 部活動について

（教頭）1年生の生徒から、「空手の県大会に参加したい。」生徒の保護者からは「道場の師範が引率するので、申し込みさせてほしい。」との要望があった。

参加要項を確認したところ、「必ず学校職員が引率をし、全責任を負うこと。」との明記があったため、空手という競技を経験のない職員が引率することは、安全管理問題があると判断せざるを得なかった。今後、生徒会などで、生徒の意見を確認しながら調整を進めていきたいと考えている。

（校長）本校では2学級特例校にともなう職員数の減少のため、昨年度多くの運動部を募集停止にすることとした。他の生徒の自尊感情を配慮しながら仕組みを整えていく必要性を感じ、今回は参加を見送らざるを得なかった。

（教頭）中体連では、クラブチーム単位の引率が可能となっているようだが、高体連においては、学校職員の引率が義務付けられている。

（委員）クラブチームであっても中体連への登録は義務付けられているが、教員以外の引率は認められている。

（委員）部活動は自分の成長を確認する良い機会なので参加しやすい個人競技であるなら、ぜひ参加を

認めていくように高体連にもあり方を考えてほしい。

(会長) 生徒の希望を叶えることは大切だが、体制にも限界があるので、調整が必要である。

(委員) 進路選択の際に、自分がやりたい部活動がある学校を選ぶというのも大切なのではないか。

●部活動について (文化部)

(教頭) 本校では、スクールミッションやスクールポリシーにおいて、開かれた学校をうたっており、地域との連携に重点を置いている。しかしながら、昨年度からの部活動の募集停止により、地域との連携の役割を担ってきたボランティア部、華道部、手芸部が活動停止となった。通年ではなく、行事ごとに募集する形で活動は継続するが、活性化のためのアイデアがあったらお聞きしたい。

(委員) 文化部発表会はたいへん素晴らしかったが、保護者の来場数が少なくて残念だった。今の時期だけしか子供と共感する時間が得られないので大切にしたい。

(校長) 公民館祭りで出品するなど、文化部は地域との連携において重要な役割を果たしている。部が募集停止になると中心となる生徒がいなくなるのが心配である。

(委員) 何十年も華道部に関わってきたので、募集停止はさみしい気持ちだ。

(校長) できるだけ機会を増やしたいと考えるが、工夫が必要である。

(委員) 書道や手芸など、文化的活動の場が少なくなってしまうことが心配である。

(校長) 部活動があるからできる活動もある。

(委員) 他校では、給食サービスやクリスマスウォークなどのボランティア活動に自主的に参加している生徒もいるが、他校生徒と合同は難しいか。

(校長) 地域連携教員を中心に検討していきたい。

(会長) 委員の皆様のさらなる協力をお願いしたい。

(2) 次回の日程について (教頭)

- ・ 2月実施予定

5. 閉会